S.Naka

THE KOBE SHIMBUN HAI　第72回 神戸新聞杯（GⅡ）

	1着	2着	3着	4着	5着
本賞	54,000,000円	22,000,000円	14,000,000円	8,100,000円	5,400,000円
付加賞	1,064,000円	304,000円	152,000円		

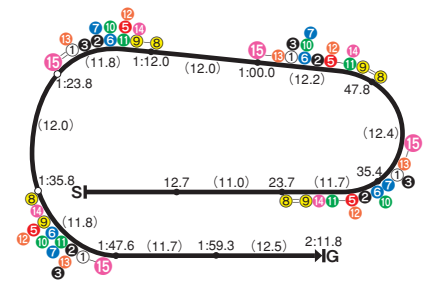
レース映像はコチラでご覧いただけます。

牡・牝、3歳、除未出走馬および未勝利馬
負担重量　馬齢重量

2024.9.22　中京　曇・稍重　芝2200ﾒｰﾄﾙ　(国際)(指定)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム(着差)	コーナー通過順位	上り(600ﾒｰﾄﾙ)	馬体重(増減)	単勝オッズ	調教師	レーティング
1	⑮	メイショウタバル	牡3	57	浜中　俊	2:11.8	1-1-1-1	36.0	496(－4)	5.4②	石橋　守(栗東)	113
2	①	ジューンテイク	牡3	57	藤岡佑介	½	3-3-2-2	35.4	496(+12)	5.9③	武　英智(栗東)	112
3	⑪	ショウナンラプンタ	牡3	57	鮫島克駿	2	11-11-9-6	35.2	530(－6)	8.2④	高野友和(栗東)	109
4	⑤	オールセインツ	牡3	57	坂井瑠星	1¾	9-9-9-10	**35.1**	486(－6)	11.2⑥	友道康夫(栗東)	106
5	⑥	メリオーレム	牡3	57	川田将雅	クビ	6-5-7-8	35.5	486(+2)	**3.7①**	友道康夫(栗東)	
6	⑭	ビザンチンドリーム	牡3	57	幸　英明	2	12-11-12-13	35.4	458(±0)	17.9⑨	坂口智康(栗東)	
7	②	バッデレイト	牡3	57	岩田望来	¾	8-8-5-3	36.2	468(+2)	12.0⑦	上村洋行(栗東)	
8	⑧	ヤマニンステラータ	牡3	57	M.デムーロ	クビ	14-14-14-14	35.4	470(+4)	41.4⑫	松永幹夫(栗東)	
9	⑦	ヴィレム	牡3	57	松山弘平	1½	5-5-5-6	36.3	506(－4)	18.9⑩	藤原英昭(栗東)	
10	⑩	ミスタージーティー	牡3	57	北村友一	クビ	6-5-7-8	36.2	472(+12)	16.5⑧	矢作芳人(栗東)	
11	⑫	ウエストナウ	牡3	57	西村淳也	アタマ	9-9-9-10	36.0	492(+18)	8.7⑤	佐々木晶三(栗東)	
12	⑨	トラストボス	牡3	57	富田　暁	¾	13-13-12-10	36.1	424(+4)	238.5⑭	高橋文雅(美浦)	
13	③	ゴージョニーゴー	牡3	57	横山和生	2	3-3-4-3	36.9	514(－2)	40.8⑪	四位洋文(栗東)	
14	⑬	インテグレイト	牡3	57	荻野　極	½	2-2-2-3	37.1	514(+4)	142.4⑬	四位洋文(栗東)	
取消	④	サブマリーナ	牡3	57	武　豊						庄野靖志(栗東)	

単勝⑮540円(2ﾍﾞ)　複勝⑮250円(4ﾍﾞ)　①220円(2ﾍﾞ)　⑪250円(3ﾍﾞ)　枠連①-⑧1,840円(9ﾍﾞ)
馬連①-⑮2,640円(9ﾍﾞ)　ワイド①-⑮1,030円(10ﾍﾞ)　⑪-⑮1,120円(12ﾍﾞ)　①-⑪680円(5ﾍﾞ)
馬単⑮-①4,870円(15ﾍﾞ)　3連複①-⑪-⑮6,000円(17ﾍﾞ)　3連単⑮-①-⑪33,790円(93ﾍﾞ)



通過タイム：600ﾒｰﾄﾙ 35.4 - 800ﾒｰﾄﾙ 47.8 - 1000ﾒｰﾄﾙ 1:00.0　上り：800ﾒｰﾄﾙ 48.0 - 600ﾒｰﾄﾙ 36.0

アラカルト

- 浜中俊騎手は神戸新聞杯初勝利。ＪＲＡ重賞は本年2勝目、通算57勝目
- 石橋守調教師は神戸新聞杯初勝利。ＪＲＡ重賞は本年2勝目、通算2勝目
- ゴールドシップ産駒はＪＲＡ重賞通算11勝目
- サブマリーナは疾病〔右後肢フレグモーネ〕のため出走取消
- メイショウタバル、ジューンテイク、ショウナンラプンタは菊花賞（ＧⅠ）に優先出走できる

メイショウタバル *Meisho Tabaru*

牡　鹿毛　2021.4.20生
北海道浦河町　三嶋牧場生産
馬主・松本好雄氏　栗東・石橋守厩舎
馬名意味・冠名＋熊本県の地名

サイレージUSA系　F8-h

ゴールドシップ 芦毛　2009	ステイゴールド 黒鹿毛　1994	サンデーサイレンスUSA
		ゴールデンサッシュ
	ポイントフラッグ 芦毛　1998	メジロマックイーン
		パストラリズム
メイショウツバクロ 鹿毛　2010	フレンチデピュティUSA 栗毛　1992	Deputy Minister
		Mitterand
	ダンシングハピネス 黒鹿毛　1999	ダンスインザダーク
		メイショウサチカゼ

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M4

INTERVIEW

三嶋健一郎専務（三嶋牧場）

菊花賞に向けてよいレースができました

皐月賞以来5カ月ぶりの出走となりましたが、厩舎からはとても順調に来ていると聞いていましたので、期待しながらレースを見ていました。心配していた折り合い面もとてもスムーズでしたし、次の菊花賞に向けてよいレースができたと思います。ダービーは直前で出走取消になりましたので、次は無事にレースを迎えてほしいと願っています。

父ゴールドシップ

北海道日高町　出口牧場生産　中央、仏28戦13戦（皐月賞^{G_I}、菊花賞^{G_I}、有馬記念^{G_I}、天皇賞（春）^{G_I}、宝塚記念^{G_I}２回、阪神大賞典^{G_II}３回、神戸新聞杯^{G_II}、共同通信杯^{G_III}）、最優秀３歳牡馬、16年から供用
〔代表産駒〕**ユーバーレーベン**（オークス^{G_I}）、**ウインキートス**（目黒記念^{G_II}）、**ゴールデンハインド**（フローラＳ^{G_II}）、**ウインマイティー**（マーメイドＳ^{G_III}、忘れな草賞・Ｌ、オークス^{G_I}３着）、**メイショウタバル**（本馬）、**コガネノソラ**（クイーンＳ^{G_III}、スイートピーＳ・Ｌ）、**ブラックホール**（札幌２歳Ｓ^{G_III}）、**マイネルグロン**（中山大障害J・^{G_I}）、**マイネルラウレア**（若駒Ｓ・Ｌ）、**プリュムドール**（ステイヤーズＳ^{G_II}２着）、**サトノゴールド**（札幌２歳Ｓ^{G_III}２着）、**ウインピクシス**（クイーンＳ^{G_III}２着）、**マカオンドール**（京都新聞杯^{G_II}３着）、**コスモブッドレア**（京成杯^{G_III}３着）、**エリオトロープ**（福島民報杯・Ｌ２着）

母メイショウツバクロ

北海道浦河町　三嶋牧場生産　中央12戦１勝、地方１戦１勝
（17 牡父マジェスティックウォリアーUSA）
メイショウメイスイ（18 牡父ノヴェリストIRE）中央７戦０勝、地方58戦11勝
（19 牡父キンシャサノキセキAUS）
ミニストリー（20 牝父シニスターミニスターUSA）中央３戦０勝、地方17戦３勝
メイショウタバル 本馬（21 牡父ゴールドシップ）中央７戦４勝（神戸新聞杯^{G_II}、毎日杯^{G_III}、つばき賞）獲得総賞金114,481,000円
メイショウヒンカク（22 牡父ロジャーバローズ）㊐
（23 牝父ディーマジェスティ）
（24 牡父アルアイン）

祖母ダンシングハピネス

北海道浦河町　三嶋牧場生産　中央１勝
アモーレヴォレ（05 牝父アグネスデジタルUSA）中央２勝、ロン（野路菊Ｓ^{OP}）、ワールドスケール ㊐（猪苗代特別、唐戸特別）の母
マスタークーク（06 牝父フレンチデピュティUSA）中央３勝
メイショウカンパク（07 牡父グラスワンダーUSA）中央６勝（京都大賞典^{G_II}、八坂Ｓ、不知火特別、柳川特別、福島記念^{G_III}２着、新潟大賞典^{G_III}３着）
メイショウツツバクロ（10 前出）
メイショウタカトラ（14 牡父アイルハヴアナザーUSA）中央３勝（境港特別）、障害１勝、地方２勝
メイショウイフウ（16 騸父アイルハヴアナザーUSA）中央１勝、地方１勝

Y.Maeda

仕切り直しの始動戦を白星で飾る

１番人気に支持されたのは小倉・芝2600㍍の２勝クラス特別を４馬身差で完勝し、長距離適性の高さをアピールしたメリオーレム。中京の芝2200㍍に移設された関西の菊花賞トライアル・神戸新聞杯は、重賞初挑戦の新星と毎日杯の覇者メイショウタバル、京都新聞杯を制したジューンテイクを双璧とする実績馬の激突が焦点となった。結果は２頭の重賞ウイナーが一枚上の地力を示し、１、２着を独占。メイショウタバルがジューンテイクの追撃を抑えて逃げ切り、仕切り直しの始動戦を白星で飾った。

14頭立ての大外枠を引き、まずは序盤の出方が注目されたレース。五分のスタートを切った浜中俊騎手は抑え気味に進んだが、スピードに乗ったメイショウタバルが行く気を見せると、逆らわずに先頭へ導く。お昼休みの前後に降った雨の影響が残る馬場（稍重）に緩みのないラップを刻みつつ、次第に差を広げていった逃げ馬に対し、後続の各馬は自分のリズムを守って進み、ジューンテイクは離れた３番手を追走。メリオーレムはその背後につけて仕掛けのタイミングを窺った。

軽快に飛ばしたメイショウタバルは5、6馬身のリードをキープして４コーナーをターン。直線の坂も11秒台のラップで駆け上がり、押し切りを狙う。さすがに最後は脚勢が鈍ったものの、ジューンテイクがひと追いごとに差を詰めてきたゴール前でもしぶとい粘り腰を発揮。相手の末脚を½馬身差に抑え込んだ。

「東上最終便」とも呼ばれる毎日杯をワンサイド（6馬身差）で逃げ切り、一躍、脚光を浴びた本馬だが、皐月賞は暴走気味の大逃げを打って17着に大敗。巻き返しが期待されたダービーも、出馬投票後に挫跖のアクシデントが判明し、出走取り消しを余儀なくされた。それでもこの日は鞍上と呼吸を合わせた逃げを打ち、春の失点をひとつ挽回。再び上昇気流に乗ったゴールドシップ産駒が〝3000㍍の長丁場をどう逃げるのか〟は、今年の菊花賞の大きなポイントとなるだろう。